

二松学舎大学附属図書館

季報

2007(平成19)年8月

夏目漱石草稿『明暗』部分



季報の復刊にあたって 菅原淳子 ②

図書館利用案内 ③

私の思い出の1冊 —A.C.Graham; POEMS OF THE LATE T'ANG— 佐藤 保 ④

図書館の思い出 —前田愛の跡を追った日々— 五井 信 ⑤

大学資料展示室 ⑥

二松学舎大学創立130周年記念展ご案内

クイズde学士様 ⑦

図書館からのお知らせ ⑧

No. 67

季報の復刊にあたって

二松学舎大学附属図書館長

菅原 淳子

平成9年1月の第66号を最後に休刊となっていた図書館季報を、このたび復刊することになった。大学が教育・研究の場としての本来の機能を発揮するためには、大学図書館の担う役割は大きい。大学図書館は、「知」の拠点としての大学のシンボルともいえよう。本学では、校舎の立替にともない九段図書館も新たになった。スペースの問題など課題を抱えてはいるが、柏図書館と合わせて本学の特色を生かした図書館として充実を図っていきたい。また季報を通じて、蔵書を紹介し図書や図書館にかかわる情報を提供していきたいと考えている。図書館からの積極的な情報発信が、本学の教育・研究の今後の活性化につながることを期待したい。

休刊していた10年の間に、日本を含めて世界ではIT革命が急速に進展した。今日社会全体で進行している電子化が、書物や図書館をめぐる環境を大きく変化させている。大学においては、学生の多くが図書館で図書を手にとって調べ物をするより、インターネットを利用して瞬時に情報を得ようとしている。インターネットの活用は学生の図書離れをますます促進することになり、本学でもここ数年、図書館利用者数が毎年数千人ずつ、前年より減少している。

情報獲得の方法だけではない。インターネットにおける検索技術のさらなる進化は、「知」の世界の秩序を再編成しつつあるともいわれている。アメリカのグーグル社が、さまざまな大学図書館と提携し、過去の書物全てをスキャンし、検索によって誰もが自由に無償で過去の書物を閲覧できるようにする、と発表した時、世界中の多くの人々が「紙媒体の書物に将来はあるのか」と衝撃を受けたことはまだ記憶に新しい。電子図書館の誕生である。

このような社会の変化に本学の図書館も否応なく対応を迫られている。変化のただなかにあって、あらためて書物の価値、図書館の意義を模索する必要がある。

図書館利用案内

二松学舎大学附属図書館について

本学には、九段キャンパスに九段校舎図書館、柏キャンパスに柏校舎図書館があります。両館とも、ほとんどの資料を手にとって自由に使える開架式の図書館です。また、オンライン目録検索システム(OPAC)で両館の所蔵資料を探することができます。

利用のしかた

図書館を利用する際は、学生証(図書館利用証)でゲートからお入りください。お持ちでない方は、カウンターでご相談ください。

学外者の方へ

学術研究・調査や生涯学習を目的とした方であれば、図書館を利用できます。詳しい利用案内は、図書館のホームページをご覧ください。

九段校舎図書館のフロアガイド

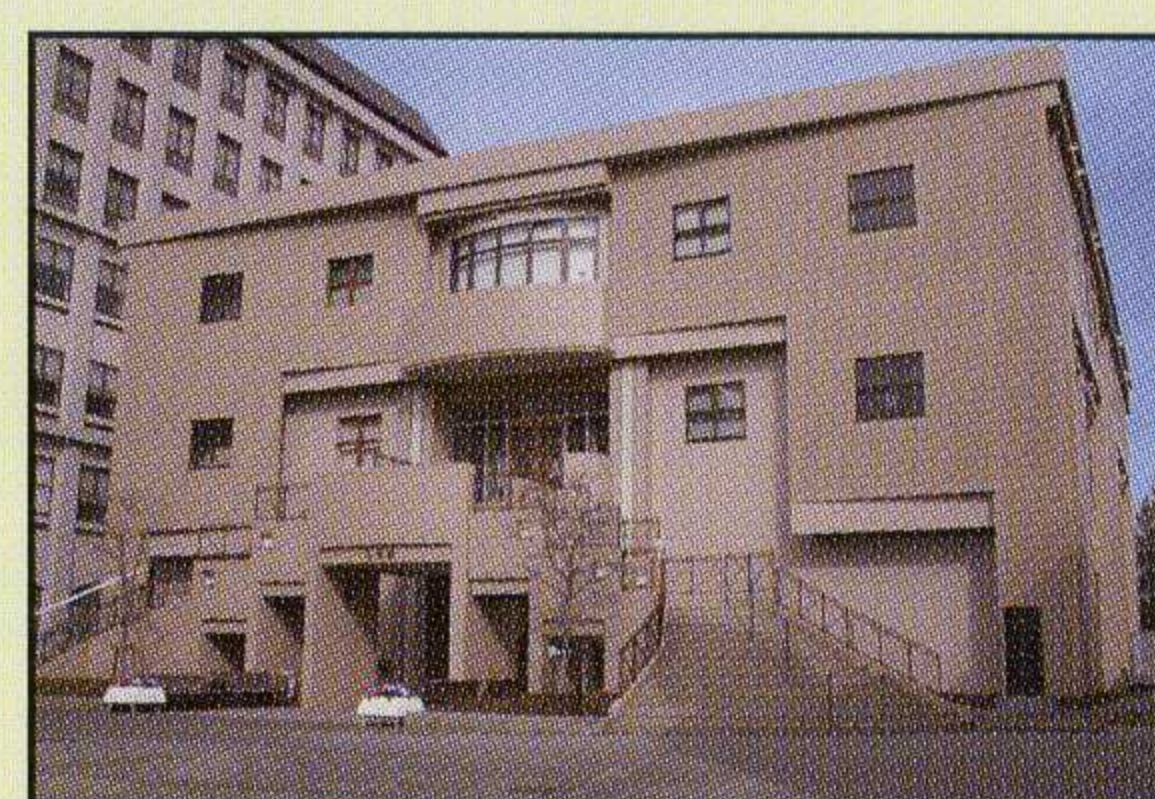
九段校舎の本館地下1・2階にあります。

- ◇**閲覧室 B1・B2F**
閲覧室にある資料は、手にとって自由に使うことができます。
- ◇**総合カウンター B1F**
資料の貸出・予約・レファレンス・利用案内等を行っています。
- ◇**グループ学習室 B1F**
グループ単位で学習・研究を行うときに、利用できます。
- ◇**マイクロフィルム閲覧室 B1F**
マイクロフィルム・CD-ROM・DVD-ROM資料が利用できます。
- ◇**AVコーナー B1F**
ビデオなどの視聴覚資料が利用できます。
- ◇**貴重本書庫 B2F**
和書・漢籍があります。利用の際はカウンターへご相談ください。

柏校舎図書館フロアガイド

柏校舎の5号館2・3階にあります。

- ◇**閲覧室 2・3F**
閲覧室にある資料は、手にとって自由に使うことができます。
- ◇**総合カウンター 2F**
資料の貸出・予約・レファレンス・利用案内等を行っています。
- ◇**AV資料室 2F**
ビデオなどの視聴覚資料、CD-ROM資料が利用できます。
- ◇**水木かおるコーナー 3F**
作詞家水木かおる氏より寄贈された資料があります。利用の際はカウンターへご相談ください。



開館時間

	平日(授業期)	平日(休業期)	土曜日
九段	9:20~21:30	9:20~16:20	9:20~16:20
柏	9:15~18:55	9:15~16:00	9:15~16:00

休館日

- ◇日曜日・国民の休日・祝日
- ◇創立記念日(10月10日)
- ◇年末年始・夏期休業中・学年末休業中の一定期間

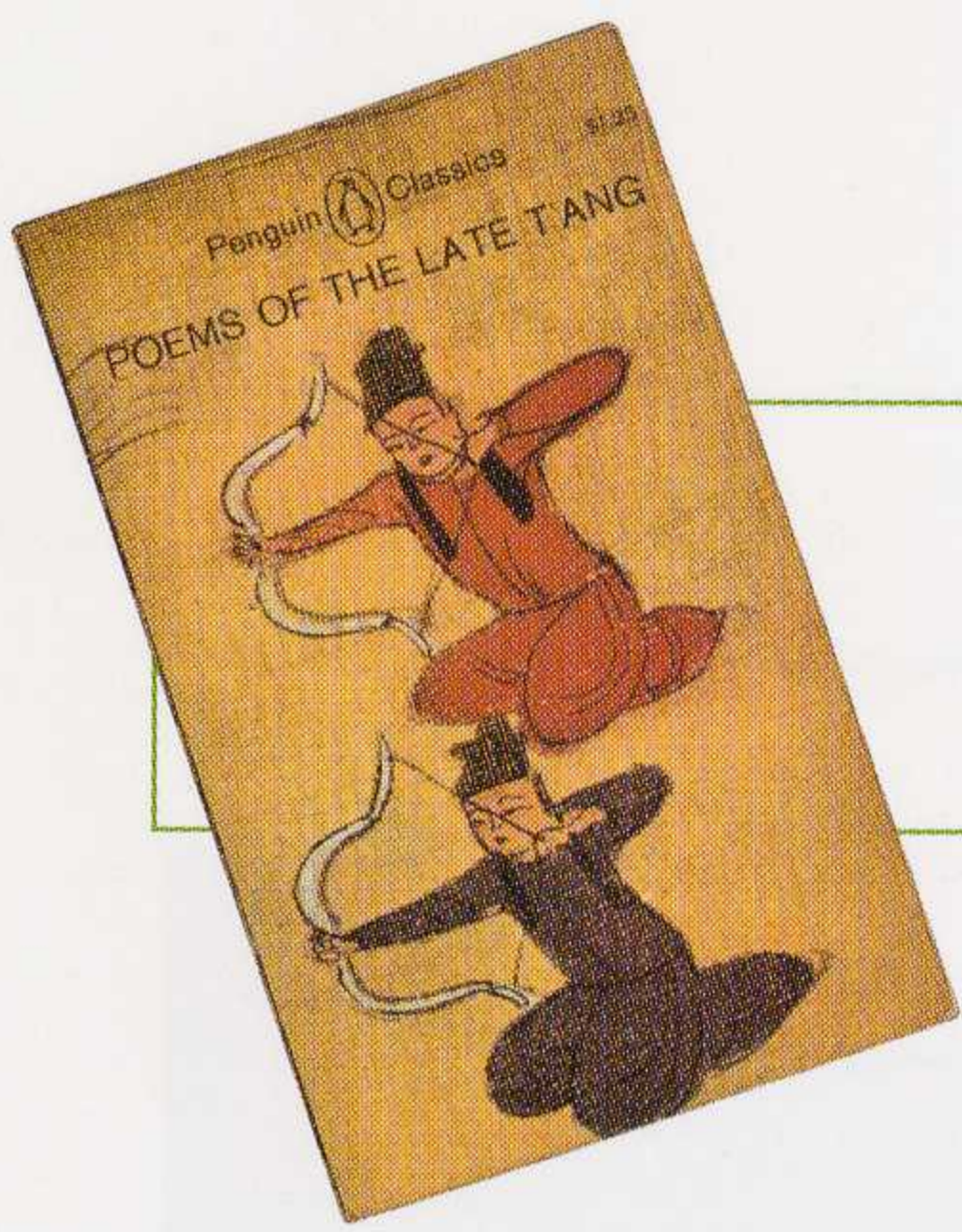
二松学舎大学附属図書館

九段キャンパス 〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16
TEL:03-3263-6364

柏キャンパス 〒277-8585 千葉県柏市大井2590番地
TEL:04-7191-8758

<http://opac.nishogakusha-u.ac.jp/>

※臨時休館や開館時間の変更等は、ホームページや掲示でお知らせします。



私の思い出の1冊

—A.C.Graham; POEMS OF THE LATE T' ANG—

理事長 佐藤 保

思い出の書物を選ぶとなると、これまでの生活のさまざまな場面でそれぞれ記憶に残る書物が思い出されるので、1冊だけ選ぶとなると、ことはそう簡単ではない。結局、あれこれ思案のすえに、三十歳代に熱中した中国詩学の研究に関する書物の中から一冊を選ぶことにした。Penguin Classicsに収められているA.C.Graham著“POEMS OF THE LATE T' ANG”（晩唐詩選）がそれで、若き日の思い出と重なる懐かしい書物である。

本書と遭遇するまでの経緯を簡単に記しておかなければならない。私が、通常は漢詩と呼ばれる中国古典詩の研究を始めたのは、大学院修士課程に入ってからであった。それまでは漢詩は好きな作品をただ楽しんでいればよかったのであるが、いざ研究となるとそうも行かない。研究を始めて早速遭遇した問題が、詩をどう読み、いかに分析し、どのように解説するかという、詩の研究法の最も基本的なことからであった。そのために、詩学や比較文学関係の書物をやみくもに読みあさったり、本郷キャンパスから駒場の島田謹二先生の比較文学の講義に毎週通ったりした。島田先生の講義は修士課程と博士課程の五年間にわたって聴講した。

博士課程の三年が過ぎたあと、たまたまオーストラリア国立大学に就職することになり、はじめは研究助手、のちには研究員として、1962年から65年まで三年間、キャンベラに滞在した。当然のことながら、大学図書館の東洋部の書庫には欧米の中国詩研究の書物が数多く収蔵されていて、それまであまり関心のなかった欧米における中国詩研究の状況を知る絶好の機会となった。暇をみては図書館から数冊ずつ借り出して来て、辞書を片手にノートを取りながら読んだ日々が、今となっては懐かしい。

Grahamの“POEMS OF THE LATE T' ANG”は、オーストラリアから帰国後に手に入れた書物である。本書がPenguin Classicsの一冊として出版されたのは1965年、私は翌66年の12月にアメリカの書店から購入した。たぶん書店のカタログを見て注文したのに相違ない。

本書の内容は、唐詩人の杜甫・孟郊・韓愈・盧仝・李賀・杜牧・李商隠等七人の詩の英訳アンソロジーである。通常に分唐説でいえば、盛唐の杜甫、中唐の孟郊・韓愈・盧仝・李賀、晩唐の杜牧・李商隠となるのであるが、Grahamのいう晩唐は、

盛唐のピークを過ぎた唐代の後半を意味しているのである。盛唐詩人の杜甫がここに入っているのは、彼の晩年の作品が中唐・晩唐の詩風を開いたと説く我が国の黒川洋一氏の説を踏まえてのことである。本書では他の詩人はただ名前を章題にしているのに、杜甫だけは“Late Poems of Tu Fu”と作品の限定が明示されている。

実は、私が本書を珍重する最大の理由は、本書冒頭の“The Translation of Chinese Poetry”の論文である。全文25ページに及ぶこの中国詩翻訳論は、Ezra Pound、Arthur Waley、Amy Lowellなど中国詩の英訳に輝かしい実績のある人々の後をうけての翻訳論である。これらの人々はキャンベラの図書館ですっかりなじみになった人々であり、そのお陰でGrahamの論文は私にはたいへん理解しやすいものであった。Graham論文の特徴は、中国語（古典中国語）の構造・文法を詳細に分析して、中国詩をどのような英語に移すべきかを検討する点にある。これが非常におもしろい。もちろん、翻訳論を実践した訳詩も興味深いのであるが、欧米人による中国語の分析が新鮮で、中国詩学や中国作詩法の論文としてこの翻訳論は一読に値する。

私は著者のGrahamについてはほとんど何も知らないが、1930年代後半から1940年代全般にわたって世界的に流行したニュー・クリティシズム（新批評）の批判から生まれた言語表現の分析を基礎とする分析批評派の一人である。

なお、京都大学中国文学研究室が刊行する『中国文学報』第24冊にワトソン氏による本書の書評がある。また本書は、丸善や紀伊国屋など洋書を扱う書店のPenguin Classicsのコーナーに今でも並んでいて、容易に手にはいる書物である。

私はこの本を読んだ後、しばらくのあいだ分析批評や翻訳論に熱中して、「中国の旧詩と分析批評」、「中国詩の翻訳」などの論文を大修館書店の「漢文教室」に連載したり、やはり新しい観点から中国詩の分析をした、James J.Y.Liu（劉若愚）の“THE ART OF CHINESE POETRY”（中国詩学）を訳して『新しい漢詩鑑賞法』のタイトルで1972年に大修館書店から出版した。

要するに本書は、私の三十歳代の昔を呼び起こす懐かしい1冊である。

図書館の思い出

—前田愛の跡を追った日々—

副館長 五井 信

学部時代の友人に「大学図書館の副館長をしている」なんて口を滑らせると、きっと大笑いされるだろう。無理もない。なにしろ、学部時代に図書館から一冊も本を借りたことがない、という前科が私にはある。大慌てで開き直れば、当時の私は「俺の図書館は古本屋街だ!」ぐらいのことを口走っていたに違いない。大学を出て右に行けば国会図書館に、左に進めば古本屋街に、それぞれ歩いて行けるロケーションを誇る二松学舎大学の学生だからこそそのセリフでもあった。

ただし、国会図書館に通うようになったのは、大学院に入学してからのことである。以下の内容は数年前に文学部紀要の「人文論叢」に一部記したもののだが、学生諸君の顔ぶれも一巡したようなので、あらためて大学院生時代の記憶を辿ってみることにしよう。

立教の大学院に入学した年の夏、指導教授の前田愛先生が亡くなられた。とてつもなく暑い夏だった。20年も昔のことだ。夏が終わって後期が始まり、大学院のゼミの仲間たちと前田さんの「著作目録」作製の作業がスタートした。一人が数冊の雑誌を担当し、バックナンバーから前田さんが書いたものを拾い上げるという作業である。立教の図書館や広尾にある都立中央図書館に通い、雑誌のバックナンバー約30年分を積み上げて一冊ずつ手に取ったのが、図書館という空間に集中して通うようになった始めである。

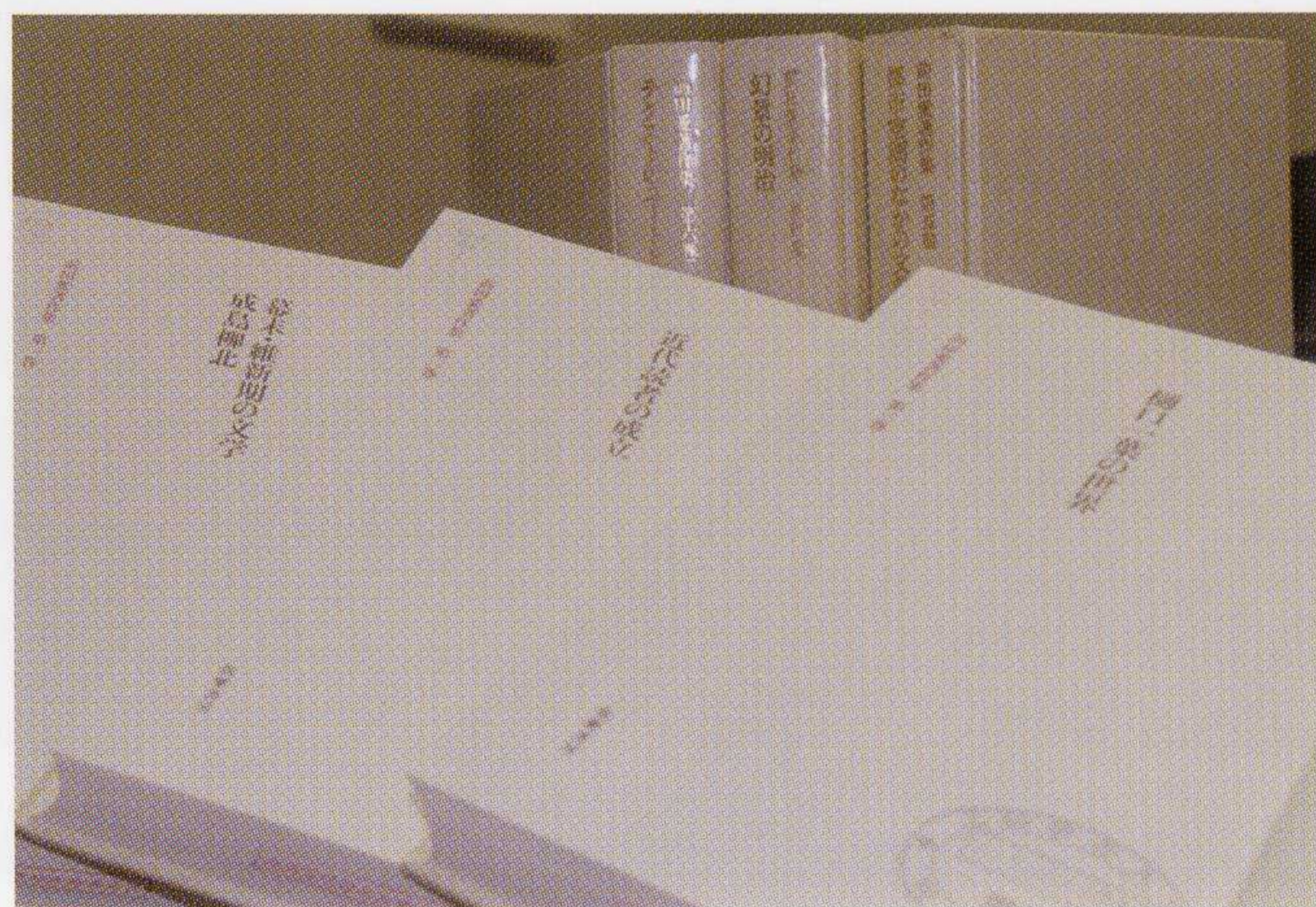
しばらく経って、筑摩書房から刊行される『前田愛著作集』の引用文の校合をせよ、という話が舞い込んだ。「引用文の校合」についても説明が必要だろう。右にあげた「著作目録」もそうなのだが、並の学者の場合、著作集を編むにしても、そのような作業を長期間かけて、しかも10名をこえる弟子の院生たちが総動員で取り組むことはまずない。そもそも、著作目録などは自分で記録しておくべきものである。だが、それさえも怠っていた前田さんの、少々ズボラな性格が著作集編集委員の方々を不安にさせたようだ。前田さんが論文などで引用している文献すべてにあたり、その一字一句までチェックする、というのが引用文の校合なのだった。

あとになって気づいたのは、前田さんのそのズボラな性

格のおかげで(?)図書館に通う楽しみを知ることになった、ということだ。前夜に該当論文を読み込む。論文と引用文献を記したノートとを国会図書館に持ち込む。書籍やマイクロフィルム、マイクロフィッシュを請求する。それが出てくるまで次に必要な文献を検索する。出てきた文献から必要部分を捜し出してチェックする。誤りがあるときは、それをノートに記す。済んだものを返却して、新しい文献を請求する……。いまならそれらの作業を当たり前のことと思える。だが最初に記したように、図書館に関するトレーニングをちゃんと経験していない当時の私である。我ながらよくやったと思われる作業が続いたわけだが、さて、その作業の何が「楽しみ」に通じたのか。

一言でいうなら、前田愛という優れた学者の思考や文字通り足跡を、一大学院生がそのまま追いかけるという作業が楽しかった。「こんな資料があるんだ」「ここまで調べ、考えるのか」といった驚きとともに、「これは美味しい資料だな」「この文献、前田さん以外は誰も目を通さないだろうな」……といった、ワクワクするような「足で稼ぐ楽しさ」「調べる楽しさ」を感じるようになったわけだ。調べることで、じつはとても楽しい作業なのである。

九段キャンパス地下1階の図書館に足を踏み入れて、ブーンと漂う本の香りに触れながら、20年前のワクワクした感じを思い出すことがいまでもある。その感覚は、図書館という空間に実際に足を運んだ者だけに与えられる快樂だ。そんなワクワクした感覚を、多くの学生諸君にも味わって欲しいと願う。学部生時代にその快樂を味わうことができなかった先輩からの、後悔を交えたささやかな願いである。



大学資料展示室



平成16年、九段校舎新築の際に開設した施設で、通常、本学ゆかりの人々の遺墨や遺品を次の五つのコーナーに分けて陳列している。

- A. 近代日本の黎明期と三島中洲の生涯
- B. 二松学舎の足跡
- C. 鑑賞展示(書跡鑑賞コーナー)
- D. 二松群像
- E. 特設展示コーナー(本館13階)

開室日: 毎週月曜日～土曜日

開室時間: 午前10時～午後4時
(土曜日は、午前10時～正午)

日曜・祝日休館(図書館の休館日と同じ)

二松学舎大学創立130周年記念展ご案内

二松学舎

二松学舎大学創立130周年記念展 二松学舎と近代書道

開館時間: 9時～16時(ただし入館は15時30分まで)

会場: 二松学舎大学九段校舎
大学資料展示室および13階展示コーナー

問い合わせ: 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
TEL:03-3263-6364 (附属図書館)

休館日: 日曜日・祝日

観覧料: 無料

後援: 二松学舎松等会

二松学舎

平成19年
9/20(木)～11/9(金)

近代書道

二松学舎大学創立130周年を記念し、二松学舎大学と近代日本書道関係者による「二松学舎と近代書道」展を開催することとなりました。

創立者三島中洲は、書家・日下部鳴鶴と親交があり、その縁を通じて比田井天来、上田桑鳩など、近代日本書道の大きな流れを作った人材が本学で学んでいます。

本展には、それらの書家をはじめ、二松学舎大学と縁の深い渋沢栄一、犬養木堂、夏目漱石、尾上柴舟、長尾雨山、落合直文など、近代に生きた文人たちの書作品を展覧します。

二松学舎と近代書道

二松学舎大学創立130周年記念展示

今年、本学は創立以来130周年になりました。これを機に、本学と近代日本書道との関係の深さに注目し、関係者の作品を展示します。そもそも、本学創立者三島中洲と近代日本書道の基礎を築いた日下部鳴鶴との縁が深く、以来、鳴鶴門から出た比田井天来、天来門から出た上田桑鳩など、近代日本書道の大きな流れを作った人材が本学で学んでいます。又、「国漢の二松学舎」と言われるように、漢詩文との縁で渋沢栄一、犬養木堂、長尾雨山、夏目漱石ら、国文学、和歌との縁で、落合直文、尾上柴舟らが入学したり、教鞭を執ったりするなど、本学と深く関わっています。これらの人を含めて、今回、以下の人々の作品を展示します。

【書跡展示者名】

- 三島中洲(本学創立者、天保元年生)
- 日下部鳴鶴(書家、近代日本書壇形成の代表的人物、六朝書道を普及)
- 渋沢栄一(実業家、論議等に精通、二松学舎経営に尽力)
- 犬養木堂(内閣総理大臣、中洲と親交あり、書に深い造詣あり)
- 落合直文(国文学者、歌人、本学に入学、のち国文学部講師を務めた)
- 長尾雨山(詩、書画の造形に深い文人、本学に入学)
- 黒木欽堂(漢文学、「書苑」を刊行、本学に入学)
- 夏目漱石(小説家、本学に入学)
- 比田井天来(書家、鳴鶴に学ぶ、本学に入学、帝国芸術院会員)
- 尾上柴舟(歌人、仮名の書の研究と書作、国文学部講師を務めた、帝国芸術院会員)
- 田代秋鶴(書道教育者、鳴鶴・海船に学ぶ、本学に入学)
- 鈴木翠軒(書家、本学に入学、第4期固定教科書筆者、日本芸術院会員)
- 石橋岸太(書道教育者、鳴鶴・天来の流れを汲む、本学名誉教授)
- 金子清起(漢詩と書道の教育に尽力、本学名誉教授)
- 上田桑鳩(書家、天来に師事、本学に入学)
- 山田正平(文人、篆刻等、本学に入学)



三島中洲書



犬養木堂書



夏目漱石書



尾上柴舟書



日下部鳴鶴書



田代秋鶴書



上田桑鳩書



山田正平篆刻

● 書跡のほか、三島中洲の遺稿・印・白譜・関係者の著書等を展示します。

・期 間 平成19年9月20日～11月9日(日曜日・祝日は休館)

・開館時間 午前9時～午後4時(入館は、午後3時30分まで)

・会 場 二松学舎大学 大学資料展示室及び13階展示コーナー

・観覧料 無料

二松学舎大学 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
TEL:03-3263-6364 www.nishogakusha-u.ac.jp

交通のご案内



市分谷 九段下

クイズde学士様 君の学士度チェック?!

単位認定基準 (単位:分)

1～5=博士、6～8=修士、9～11=学4、12～14=学3、
15～17=学2、18～20=学1、21～=判定不能、

問題

1. IMFの日本語訳は
2. ILOの日本語訳は
3. 人間のすべての行動に対するアラール神の規範は
4. イギリスの法学者で「法は主権者の命令である」と主張したのは
5. 財団法人を設立する行為、または財団法人の根本規則は
6. 犯罪および犯罪に対する法律効果(刑罰・保安処分)を規定した法の体系は
7. 国家の組織を規律する原則の全体を
8. 1804年のフランス民法典は
9. 世界最古の成文法典といわれているのは
10. 1770～1831年のドイツの哲学者で、「法の哲学」の著者は
11. フランスの法官貴族で、「法の精神」の著者は
12. ジュネーヴ生まれの政治思想家で、「エミール」の著者は
13. 1919年8月11日附ドイツ共和国憲法は
14. 事実または権利の存否・範囲について争いのある当事者が互いに譲歩することによって争いをやめることを約する契約は
15. 1959年1月カストロに指導されたゲリラ軍がF.バティスタの独裁政権を打倒したことに始まる革命は
16. 第二次世界大戦後、連合国が、ナチスの指導者を対象として行った戦争裁判は
17. アメリカ国防総省の俗称は
18. ハワイ・オアフ島は沖縄・那覇より北にある。○か×か
19. ロンドンは札幌より北にある。○か×か
20. ローマは東京より北にある。○か×か
21. 二松学舎大学の創立者は
22. 二松学舎大学が創立されたのは何年何月何日
23. 二松学舎大学が創立されて今年は何年目
24. 二松学舎大学にある学部は何
25. 知行合一を唱え、『伝習録』を著した思想家は
26. 処女歌集『みだれ髪』の作者は
27. 『源氏物語』の作者は
28. 神田の秤屋の小僧仙吉が登場する志賀直哉の作品は
29. 『方丈記』の作者は
30. 大正7年に発表した芥川龍之介の作品は
31. 『説苑』を著した前漢の学者は
32. 「君待つと吾が恋ひ居れば・・・」と詠んだ万葉集第一期の歌人は
33. 『遠野物語』『蝸牛考』を著した民俗学者は
34. 米人宣教師のヘボンが約8年を費やして慶応3(1867)年に完成した辞書は
35. 東京・九段下に安政4(1857)年に設けられた施設は

※解答は次のページです。

表紙資料解説

夏目漱石草稿『明暗』部分

夏目漱石の『明暗』は、東京朝日新聞に大正5年5月26日から12月14日まで掲載され、漱石の死(大正5年12月9日)により、未完となった、最後の長編小説。単行本は、大正6年1月、岩波書店から刊行された。

夏目漱石は、明治14年漢学塾二松学舎に入塾、漢学を学んだ。この草稿は『明暗』の連載6回目(右)、8回(左)に当たる。

8月の開館日案内

九段				柏	
※ 9:20～20:00	1	水		9:15～18:55	
※ 9:20～20:00	2	木		9:15～18:55	
※ 9:20～20:00	3	金		9:15～18:55	
閉館	4	土		閉館	
閉館	5	日		閉館	
9:20～16:20	6	月		9:15～16:00	
9:20～16:20	7	火		9:15～16:00	
9:20～16:20	8	水		9:15～16:00	
9:20～16:20	9	木		9:15～16:00	
9:20～16:20	10	金		9:15～16:00	
閉館	11	土		閉館	
閉館	12	日		閉館	
閉館	13	月		閉館	
閉館	14	火		閉館	
閉館	15	水		閉館	
9:20～16:20	16	木		閉館	
9:20～16:20	17	金		閉館	
※ 9:20～16:20	18	土		閉館	
閉館	19	日		閉館	
9:20～16:20	20	月		9:15～16:00	
9:20～16:20	21	火		9:15～16:00	
9:20～16:20	22	水		9:15～16:00	
9:20～16:20	23	木		9:15～16:00	
9:20～16:20	24	金		9:15～16:00	
※ 9:20～16:20	25	土		閉館	
閉館	26	日		閉館	
閉館	27	月		9:15～16:00	
閉館	28	火		9:15～16:00	
閉館	29	水		9:15～16:00	
閉館	30	木		9:15～16:00	
閉館	31	金		9:15～16:00	

○夏期休業期間中、九段図書館は改装工事等のため、ご不便をおかけする場合があります。ご協力のほどお願い申し上げます。

○新図書館システム移行のため、「館外貸出票」による貸出・返却手続きを行っています。

※ 開館または閉館時間を変更しています。ご注意ください。※ 開館時間等が変更になる場合は、随時、訂正版や掲示等でお知らせします。

9月の開館日案内

九段				柏	
閉館	1	土		閉館	
閉館	2	日		閉館	
9:20～16:20	3	月		9:15～16:00	
9:20～16:20	4	火		9:15～16:00	
9:20～16:20	5	水		9:15～16:00	
9:20～16:20	6	木		9:15～16:00	
9:20～16:20	7	金		9:15～16:00	
9:20～16:20	8	土		閉館	
閉館	9	日		閉館	
9:20～16:20	10	月		9:15～16:00	
9:20～16:20	11	火		9:15～16:00	
9:20～16:20	12	水		9:15～16:00	
9:20～16:20	13	木		9:15～16:00	
9:20～16:20	14	金		9:15～16:00	
9:20～16:20	15	土		閉館	
閉館	16	日		閉館	
閉館(敬老の日)	17	月		閉館(敬老の日)	
9:20～16:20	18	火		9:15～16:00	
9:20～16:20	19	水		9:15～16:00	
9:20～16:20	20	木		9:15～16:00	
9:20～21:30	21	金		9:15～18:55	
9:20～16:20	22	土		9:15～16:00	
閉館(秋分の日)	23	日		閉館	
閉館(振替休日)	24	月		閉館	
9:20～21:30	25	火		9:15～18:55	
9:20～21:30	26	水		9:15～18:55	
9:20～21:30	27	木		9:15～18:55	
9:20～21:30	28	金		9:15～18:55	
9:20～21:30	29	土		9:15～16:00	
閉館	30	日		閉館	

九段図書館の改装に伴う夏期休業期間中の利用について

九段図書館では、平成19年度の夏期休業期間中に、図書館内の改装工事を予定しております。

作業に伴い、利用者の皆様には何かとご不便をおかけいたしますが、より便利な図書館サービス提供のため、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

図書館(柏校舎)からのお知らせ

本学図書館(柏)は、2006年10月1日から千葉県東葛地区大学図書館コンソーシアム(TULC)に参加しています。利用資格と入館手続きは参加各図書館とも共通です。

利用資格: ①学生及び教職員

②上記以外で特に認められた者

入館手続: 学生は学生証、教職員は身分証明書を提示する。(※事前連絡をしてください。)

新図書館システム導入に伴う移行措置について

図書館では、今秋より新しい図書館システムを導入するため、鋭意作業を進めております。

システムの移行に伴い、利用者の皆様には何かとご不便をおかけいたしますが、より便利な図書館サービス提供のため、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1: 国際通貨基金 2: 国際労働機関 3: イスラーム法 4: オースチン
5: 憲法 6: 刑法 7: 民法 8: ナボレオン法典 9: ハンブルク法典
10: ヴェーゲル 11: モンテスキュー 12: ルソー 13: ヴォルテール
14: 和蘭 15: キューバ革命 16: ニューホルンベルク国際軍事裁判
17: ヴンタコ
18: × (1) ハン・オランダ島は北緯21.5度、那覇は北緯26度位
19: ○ (1) ロンドンは北緯50度、札幌は42度位
20: ○ (1) ロースは北緯42度、東京は北緯36度位
21: 三島中洲(翁) 22: 明治10(1877)年10月10日
23: 130年目 24: 文学部と国際政治経済学部
25: 王陽明 26: 与謝野晶子 27: 樂式部 28: 小僧の神様
29: 鴨長明 30: 蜘蛛の糸 31: 劉向 32: 額田王
33: 柳田國男 34: 和英語林集成 35: 審書調所

クイズの答え

閲覧室の窓から

▼「季報」は昭和52年7月に創刊、平成9年1月の第66号をもって休刊。復刊を望む声。▼この度の異動で古巣に。図書館を取り巻く環境は大きく変わっていた。▼創刊当時の理事長・学長浦野匡彦先生は、「大学の図書館は、自ら学び・自ら考え・自ら研究する学生のために存在する知識の宝庫である」。図書館長石川梅次郎先生は、「多方面に意欲をもってこの小報をそだてて行きたいと念願するものである」と。▼菅原館長、佐藤理事長、五井副館長には、快く原稿をお書きいただいた。感謝申し上げます。▼「季報」第67号をお届けします。(北)

二松学舎大学附属図書館 季報 第67号

発行日 平成19(2007)年8月20日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段校舎図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話:03-3263-6364

柏校舎図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話:03-5614-2515